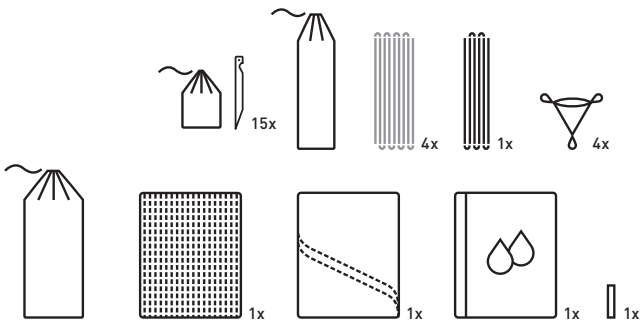
TENT CARE & USAGE

VE25

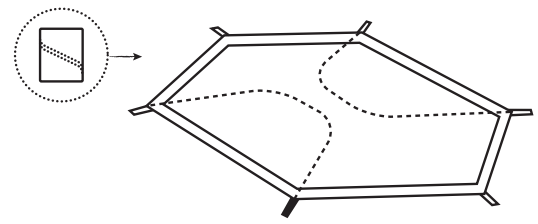
S16NF00CA8E TPI

01



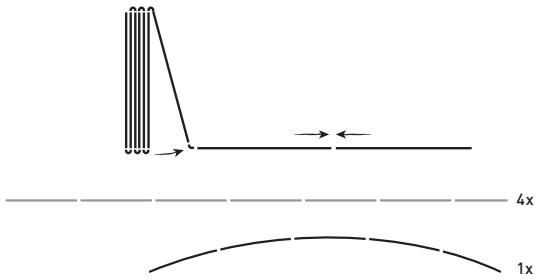
スタッフバックから全ての商品を取り出します。
※このテントにはスノーアンカー、応急処置用ポールカバーが付属します。

02



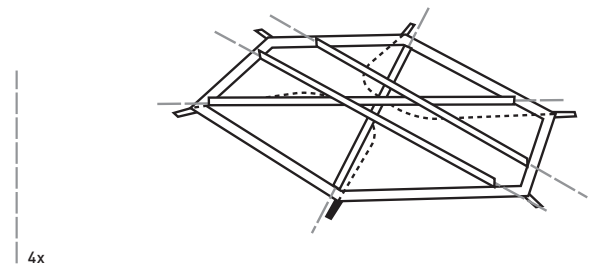
本体を平らに広げます。

03



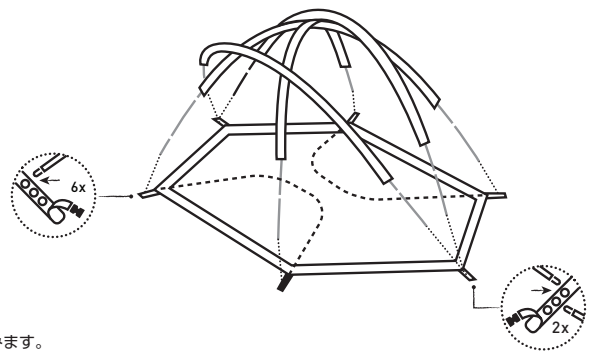
ポールを組み立てます。(長4本、アーチ型1本)

04



組み立てた4本の長いポールを、本体をクロスしているスリーブ、
平行に走っているスリーブのそれぞれに通します。

05



クロスしているポールをそれぞれのグロメットに差し込みます。
平行になっているポールは、同じテープ上のテント側、真ん中の
グロメットに固定し、ポールを立ち上げます。

06

立ち上げたポールに本体に付いているクリップを引っ掛けていきます。

07

フライシートを本体にかぶせ、フライシート内側のベル
クロをポールにとめ、本体に固定したポールとフライ
シートにあるグロメットをそれぞれ固定します。
フライシートの前室部分のスリーブにアーチ型のポール
を通します。
テントの設営位置を決め、テントの四隅などに仮止めの
ペグを打ち、テントを仮で固定します。
※ペグを打つハンマー等はご自身でご用意ください。

08

テント本体、前室等をペグや付属のスノーアンカーを
使用し、本固定していきます。
必要に応じて引き紐を取り付け、テンションを調整
し、全体のバランスを整えて使用してください。

テントの解体

上記の手順を逆に行います。
テントポールを折りたたむ際は中央部分から行ってください。
端から外し始めると内側のゴムにかかる負荷がアンバランスになり、劣化が早まります。
本体、フライシートはスタッフバックと幅を合わせ、折りたたんだポールを使って巻いていくときれいに折りたたむことができます。

テントの取扱いと保証

シーム処理
テントのフライシートには、製造段階でシームシーリングを施しています。

保管方法
テントを保管する際は、必ず完全に乾燥させた状態で収納をしてください。高温多湿状態では、防水コーティングを剥離させる原因となる白カビが発生しやすく、生地の寿命を低下させます。
テントを長期間収納したまま放置してしまうことも生地の寿命低下につながります。定期的に設営し、生地を換気しましょう。

クリーニング
テントを設営した後、真水で汚れを洗い流し、スポンジ・タオル等で湿気をふき取ります。
換気をしっかりと行い、完全に乾燥したら収納します。
ランドリー洗濯やドライクリーニングはしないでください。

ジッパーとポール
ジッパーにはスムーズな動作を保つため、定期的にシリコンスプレーを噴霧してください。
ポールは接合部の土や砂、ほこりなどの汚れをこまめにふき取り、内側のゴムも定期的に交換してください。

保証
不適切な設営によるポールの破損や生地の破れ、白カビの発生や不適切な保管・洗浄によって発生したコーティング劣化等の生地へのダメージはThe North Faceの保障の対象とはなりません。
適切な設営方法・保管方法をきちんと理解し、使用してください。

テントの使用と安全性

The North Faceのテントは便利で快適な居住性を提供するようにデザインされています。アウトドアでは以下のポイントを参考にしてご使用ください。

テントサイトの選び方
凹凸が少なく、乾いた平らな地面が理想的です。大きな石や尖った石を取り除き、テント本体の大きさを整地してから設営をしてください。
湿地や雨天時では本体のフロア部分から水分が浮いてくることが考えられます。
テント本体の保護をするためにも、オプションのフットプリントを併用することをお勧めします。

荷物の整理
The North Faceのテントは機種により様々な形の前室があります。
テント内を広く使うためにパック等のギア類は前室に置き、快適な寝室を作るために役立ててください。
※前室に荷物を置く際は、設営場所周辺の動物や気象条件をよく把握して外に出す荷物を判断してください。

ベンチレーション
The North Faceのテントには新鮮な空気を取り込む為のベンチレーションを設けています。
気象条件に合わせて開け方を調整してください。

悪天候の時は
強風の時には入口を風下に向け、さらに風よけになるものの影にテントを設営します。本体・フライシートにガイドライン（張り綱）をしっかりと結び付け、ペグで固定します。必要に応じて木や岩に結び付ける等して、テントをさらに固定させます。雨天時も雨水を溜めさせないようにガイドラインはしっかり張ってください。

火器の使用に関して
The North Faceのテントは防火基準に適合するような処理をされています。
しかし、テント内での火器の使用は酸欠や中毒症状を引き起こす可能性があり、大変危険ですので避けてください。調理等でテント周辺で火器を使用する際も延焼するものが近くにないように注意してください。